

年の初めに「立志」を決める

心は常に乱れる。その心の焦点を1に定める事を「立志」という。立志は言い換えれば、人生に対する覚悟を決めることだと言えましょう。私達の間はどういう志を持っているかによって人生が決まる。志の高低がその人の人生を決定するのです。志は若者の「売特許ではありません。夢や目標は古者だけに許された専売特許だと言うのであれば、その人は「生きる屍」とは考えます。サムエル・ウルマンの「青春とは」の一節に「青春とは真の青春とは 若き 肉体のなかにあるのではなく 若き 精神の中ににある」と。

即ち30代には30代の、50代には50代の、70代には70代の立志があるはず。

宇宙が目に見えない力によって調和ある活動を保つように、人間も志を持つ事によって調和ある人生を全うできるのです。しかもその志を持つ為に、志の中心を為すのが「宗教心」であると確信します。

16世紀にキリスト教を日本に伝えたフランシスコ・ザビエルが、まず何に驚いたかという点、お金のない武士が金のある町人達に尊敬されていた点でありました。また、大正の末期から昭和初期にかけて駐日大使を勤めたフランシスコ・ザビエル

本の敗戦色が濃くなった昭和18年にパリでこう言った。「日本人は貧しいが高貴である。世界でただ一つ生き残ってほしい民族を挙げるとしたら、それは日本人だ」と。

つまり彼が日本にいた大正末期から昭和初期にかけての日本にはまだ世界一の道徳、国民の高い志、そして自然を愛する宗教心が息づいていたわけであります。文化や芸術は人間と獣を分かちつ大切なものでしょう。日本が世界に誇りうるのは素晴らしい情緒と形だと思えます。非常に緻細な美的感受性、こういうものは世界でも飛び抜けてナンバーワンなんです。

それから卑怯を憎むとか、名誉と恥とか、忍耐と誠実とか、弱者に対する思いやりの気持ち。

「求めれば出会う」...やはり人間は自分の求めるものに依じて人に出会っていきと思うんです。何でも採算とか効率で物事を考えるのではなく、動機が純粹ならば必ず道は開けるものと信じます。ただお金儲けばかりを追求するのではなく、世のため人のため、そういう公のために努力するのなら必ずうまくいくと信じます。逆に動機が不純で、尚かつ異常な急成長は必ずどこかに無理が生じます。

こういう話があります。「昨年の夏に台風が来た時、ガーデン内で急成長した木が一本だけ折れた。それを輪切りにすると年輪の間隔は、異常に広く伸びている。成長が早すぎるから、台風

単に折れてしまう事を物語っている」と。

自然に素直になれば物事はうまくいく。本来あるべき姿に本当に素直に従っている間は、物事は必ずうまくいくのです。それが宇宙の真理とも言えるのではないのでしょうか。

「大変なこと」と「不可能なこと」は違いますよ。私の勝手な解釈ですが、暗い顔をしている人は、失った事やそれによってできなくなった事は、かりを考え、出来ない事を言い訳にしている。逆に明るい顔をしている人は、残された事物で出来る事を考え、「これができるようになったから、次はあれが目標を語って、実現に向けて走っている。出来ること」と「出来ないこと」を分け、今できることだけをやる。出来ないことは悩まない。どんなに能力が低くても基本的に忠実であれば、シツカリと仕事が出来。時間がかかっても、格好が悪くても、人間はやるうと思えば何でも出来る。どこかで誤魔化したり「まあいいだろう」という気持ちがあつては絶対に良い結果は生まれません。

人生「覚悟」が大事です。逃げない。どんな結果でも自分で引き受けて責任を取る。その覚悟です。覚悟さえすれば誰でも出来る。出来ないのはやらないからです。やりさえすれば出来るのに、やらないから出来ない。無理の無理な事ばかりですが、そう

続けたという事なくして成功した人っていないと思います。命懸けで事に臨めば、なし得ない事はない。

世の中が未曾有の破壊と創造にある今日ほど、「人間とは何か」「生きる」といつた本質的な問いが重要な時はありません。今こそ大切なのは「心」です。心を大切にすることは観念上のことではなく、日常生活と、その中で自分を振り返る実践から始まるものと、新年を迎えた今こそ思い定め、1日1日を大切に生きていきたいものです。

『日新日日新又日新』です。一生懸命やっていたら仕事は教えてくれます。

また熱心に行っていると必ず人にも恵まれますよ。苦しみと楽しみはいつも一緒になってやってきます。でも、悪いことは忘れることです。

最後になりましたが、いやあ、昨年も皆様に全力で支えられ、そして本年も無事に迎えることが出来ました。どうか本年も御指導、御鞭撻の程を呉々も宜敷くお願い申し上げます。新年の挨拶に代えさせて頂きたいと思えます。副任職 谷川寛敬

